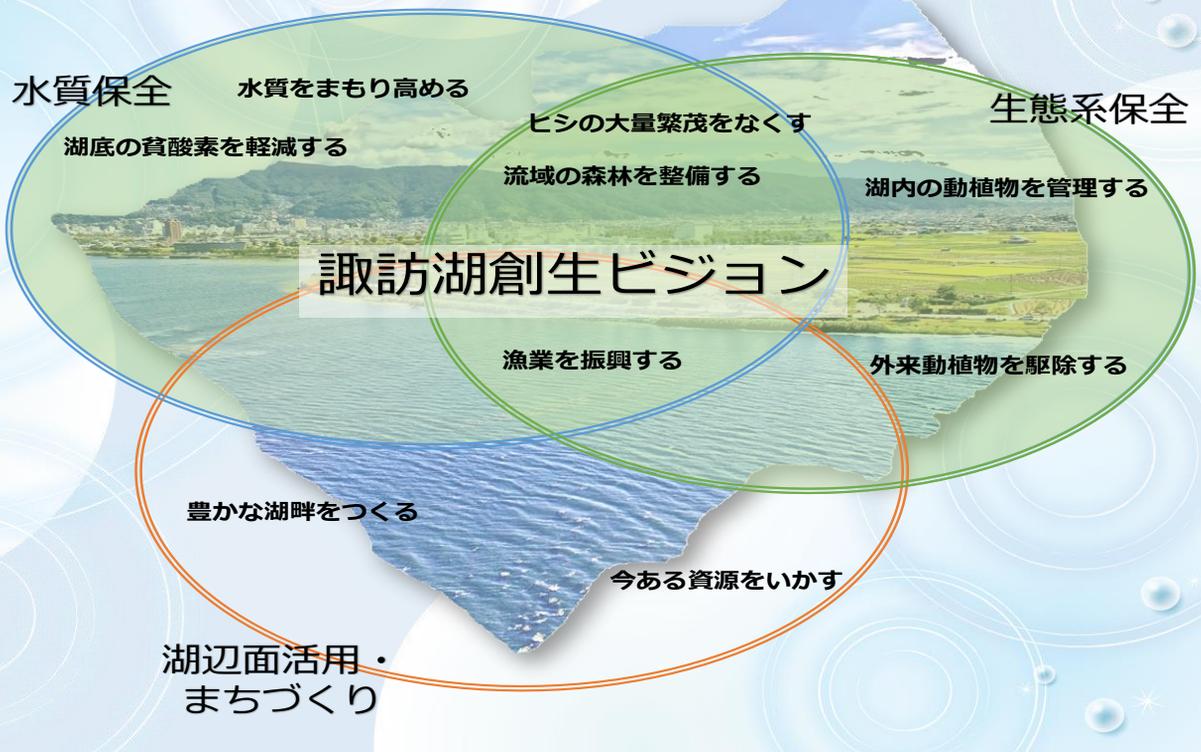


諏訪湖 創生ビジョン

『人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖』の実現に向けて
〔概要版〕



令和5年3月改定(平成30年3月策定)

1 ビジョンの位置付け等

- 諏訪湖の水環境保全（水質、水量、生態系等）を統合的に推進し、“諏訪湖を活かしたまちづくり”と一体的に進め、「泳ぎたいくなる諏訪湖」「シジミが採れる諏訪湖」「誰もが訪れたいくなる諏訪湖」を実現するための道筋を示すもの
- 県、市町村、地域住民、企業等が協働し、地域一体となって諏訪湖を創生するための拠りどころ
- 諏訪湖に関わる各種計画（諏訪湖水質保全計画、諏訪湖水辺整備基本計画など）を取り込む
- 水循環基本法の水循環基本計画に基づく流域水循環計画として位置付け
- 諏訪湖を中心としたSDGsの具体化（「水環境保全＝環境」「漁業・観光振興＝経済」「学び・まちづくり＝社会」）に統合的に取り組む



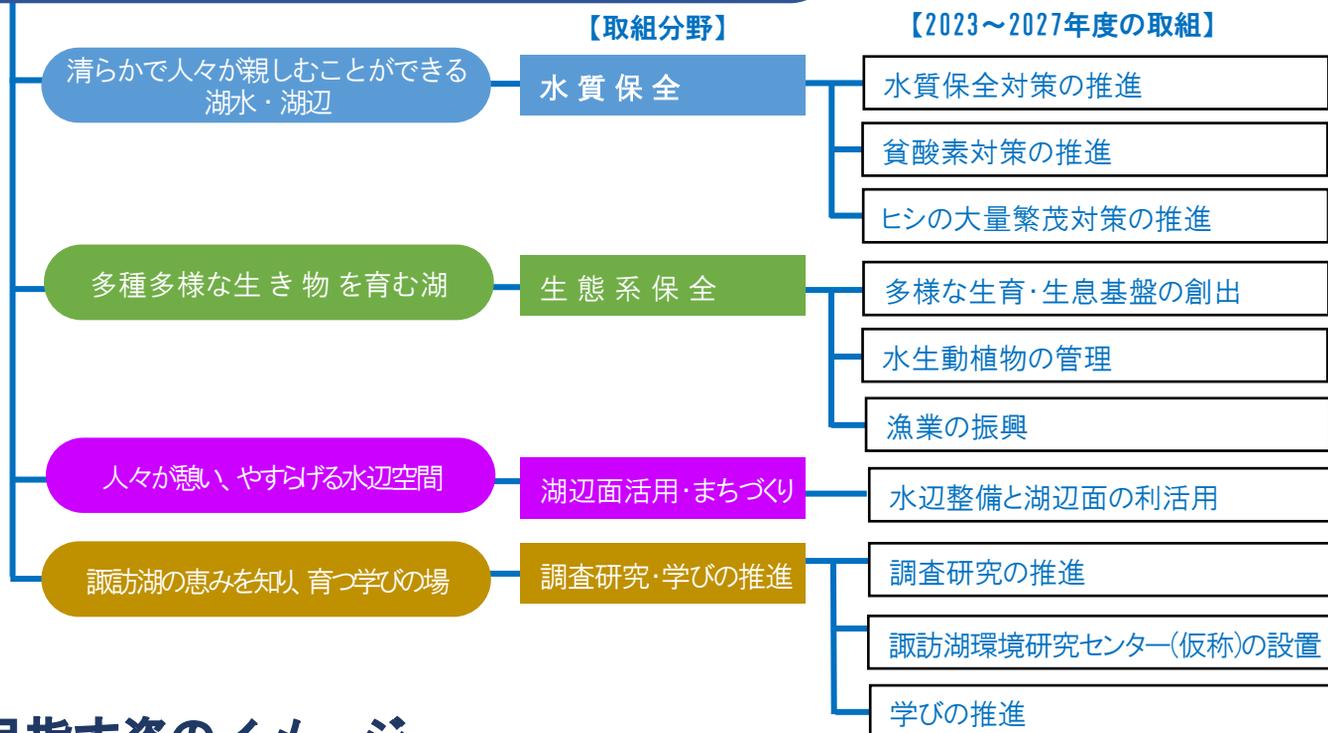
※SDGs（持続可能な開発目標）とは、経済・社会・環境の課題を統合的に解決することを目指す国際社会共通の目標です。
 ※SDGs達成に向け政府が定めた「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（2016年12月）においては、地方自治体の各種計画にSDGsの要素を最大限反映することが奨励されています。

- 計画期間は、2018年度（平成30年度）を初年度とし、概ね20年後（2038年）の諏訪湖のあるべき姿を念頭に、5年ごとに施策を見直す

2 ビジョンの体系

長期ビジョン（20年後の目指す姿）

人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖



目指す姿のイメージ

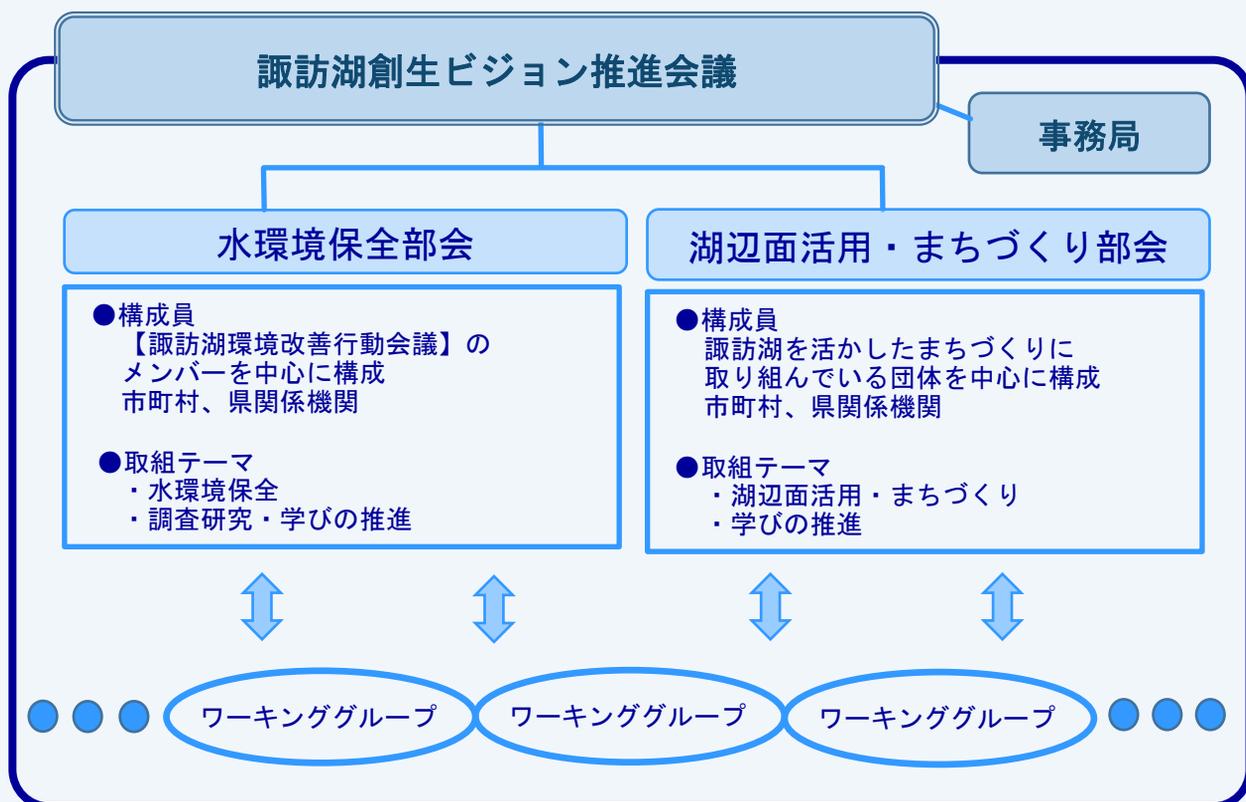
- 水質が改善され、澄んで透明感がある湖水には、魚や水草の姿を見ることができる。
- 貧酸素が改善され、エゴ（入り江）や砂浜など変化に富んだ環境には多種多様な生き物が育まれている。
- 豊かな生育環境が再生され、ワカサギなどの有用な水産資源が持続的に利用されている。
- 水面や湖辺にゴミがなく、美しい景観が保たれている。
- 湖畔が、治水、親水、レクリエーション利用、景観、生態系等湖辺の特性に応じた整備がされ、それぞれの場所が魅力ある場所となっている
- 湖を眺めながらカフェなどでゆったりとした時間を楽しむ人たちが賑わっている。
- 湖上や流入河川では、ヨットやボート、カヌー、カヤックなどを楽しみ、湖畔の砂浜では泳いでいる人々の姿がある。
- 湖畔に整備されたサイクリングロードでは、人々が、健康づくり、又はスポーツとしてサイクリングを楽しんでいる姿がある。
- 観光客が美術館や博物館を周遊するなど、湖畔での散策や温泉などを楽しんでいる。
- 諏訪湖が国際的な湖沼研究の場となり、国内外から多くの研究者や見学者が訪れている。
- 諏訪地域をはじめ長野県内の多くの子どもたちや観光客が諏訪湖を訪れ、水環境保全や歴史・文化について学習している。

3 今後5年間の主な取組

取組分野	課題	主な取組
(1) 水質保全	<ul style="list-style-type: none"> ・全リンが環境基準を達成、COD及び全窒素は未達成 ・貧酸素水域の拡大 ・ヒシの大量繁茂による、沿岸域での貧酸素、生態系への悪影響 	<ul style="list-style-type: none"> ア 水質保全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・沈澱ピット・植生水路による栄養塩類除去 ・諏訪湖まるまるゴミ調査等によるマイクロプラスチックごみ対策 イ 貧酸素対策 <ul style="list-style-type: none"> ・底層溶存酸素（D0）測定地点を設定して監視・測定 ・覆砂の拡大 ウ ヒシの大量繁茂対策 <ul style="list-style-type: none"> ・水草刈取船のほか手作業によるヒシの刈取り ・ヒシ除去の新たな仕組みづくりの検討
(2) 生態系保全	<ul style="list-style-type: none"> ・エゴ（入江状の水生植物帯）の再生など生物多様性に配慮した護岸整備が必要 ・湖畔における動植物の調査が不足 ・ワカサギなどの漁獲量の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ア 多様な生息・生育基盤の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・エゴの再生に向けた調査研究 ・諏訪湖に適した「人工エゴ」の試行的設置による水辺移行帯の機能修復 ・湖沼法に基づく湖辺環境保護地区の指定に向けた検討 ・多面的・公益的機能の発揮に向けた森林整備 イ 水生動植物の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性を創出する環境整備 ・湖畔における動植物モニタリング調査の実施 ・オオクチバスやブルーギルなど外来魚の駆除 ウ 漁業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・シジミの生息環境となる覆砂 ・ワカサギの採卵技術の開発やテナガエビの資源量調査 ・カワアイサ等魚食性鳥類及び外来魚対策の推進
(3) 湖辺面活用 ・まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に親水利用できる湖岸が少ない ・土砂堆積により船舶運航等に支障 ・安全なサイクリング・ウォーキングが困難 ・諏訪湖の魅力の活用が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ア 水辺整備と湖辺面の利活用 <ul style="list-style-type: none"> ・水浴場の利用を見据えた砂浜の整備 ・堆積状況に応じた治水浚渫 ・治水浚渫の効果及び諏訪湖全域への堆砂の影響を把握するための湖底調査 ・利水・生態系保全のための浚渫について調査・検証 ・「河川空間のオープン化」に向けて官民一体で推進 イ 「諏訪湖周サイクリングロード」整備推進 <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロードの整備 ・休憩施設「レイクサイドオアシス」の整備 ウ 観光活性化のための整備 <ul style="list-style-type: none"> ・民間団体等との連携によるトライアスロン大会、カヌー・カヤック等の活動推進 ・芸術・文化施設との連携
(4) 調査研究・学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・水質浄化や生態系に係る研究課題が山積 ・調査研究、情報発信や環境学習のための拠点の整備が必要 ・住民の諏訪湖に対する関心の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ア 水質や生態系の保全に関する調査研究 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な魚類の生息環境を形成するための技術 ・マイクロプラスチックの存在実態把握 ・諏訪湖の水質・生態系への気候変動への影響と適応策 イ 諏訪湖環境研究センター（仮称）の設置 ウ 学びの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「諏訪湖の案内人（仮称）」の育成 ・「諏訪湖の日」の周知や水環境保全に対する住民意識向上のため官民連携による活動を推進

4 推進体制

- ・ 県、市町村、諏訪湖に関わる取組をしている団体や企業等のほか、個人も参加できる「諏訪湖創生ビジョン推進会議」を設置
- ・ 部会を設けてテーマごとに議論するとともに、具体的な事業についてはワーキンググループを立ち上げて機動的に取組を推進
- ・ 諏訪湖創生ビジョン推進会議において、それぞれの団体等が行う取組の進捗状況等を把握して関係者間で共有するとともに、住民の皆様にも広く公表し、より効果的な取組を検討



- 諏訪湖創生ビジョンの具体化に関心のある方は、団体だけでなく個人も参加できます。
- 官民連携体制で事務局を運営

全体版は諏訪地域振興局のホームページに掲載しています。

【<https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachikikaku/vision/vision.html>】

【お問い合わせ先】

長野県諏訪地域振興局企画振興課
〒392-8601

長野県諏訪市上川1-1644-10

TEL 0266-57-2901

FAX 0266-57-2904

E-mail suwachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp

